再評価個表

事 業 名	広域河川改修事業	事業主体	愛媛県
施設･工区名等	(二)渦井川・室川・界谷川 ・金剛院谷川	事業箇所	西条市明神木　他
事業主旨	界谷川は、河道断面が小さく潮位の影響を受ける河川であり、河道の流下能力不足と周辺の地盤が低く水はけが悪いという地形条件が重なり、度々、浸水被害が発生してきた。このため、平成 3 年より河川改修に着手、平成 29 年 3 月策定の渦井川水系河川整備計画において計画の見直しが行われた。本事業は、渦井川河川整備計画に基づき、下流の渦井川および室川の河川改修に加え、界谷川、金剛院谷川の堤防嵩上げ、河道付け替えおよび界谷川の下流に排水機場の整備等を行い、浸水被害の低減を図るものである。		
再評価の実施理由	「事業採択後 10 年が経過して継続中」の交付金事業		

１．地域の概要

渦井川は、その源を石鎚山脈に連なる愛媛県新居浜市の黒森山に発し、急峻な山地を北に流下して、新居浜市と西条市の境界付近で中流域の平野に至り、西条市東部の平野を西流し、西条市玉津付近で最大の支川、室川を合流して流れを北方に転じ、燧灘に注ぐ、流域面積 42.82km^2、幹川流路延長 12.8km の二級河川である。その流域は、西条市と新居浜市にまたがり、上流部は山地、中流部は田園地帯、下流部は工場や住宅が密集する港湾工業地域となっている。近年では中流の田園地帯を中心に宅地化が進んでいることから、当該地における渦井川の治水・利水・環境の意義は大きい。

２．事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 3 年度	完成予定	令和 28 年度（見込み）
用地着手	平成 5 年度	工事着手	平成 10 年度
全体事業費	7,193 百万円(うち用地費：856 百万円)		
(1)事業概要	計画延長 4,500m、築堤 30,500m3、 水門 1 基、排水機場 1 基、潮止堰 1 基、樋門 3 基		

(2)事業経緯	平成3年4月　界谷川小規模河川改修事業採択 平成18年3月　渦井川水系河川整備基本方針策定 平成29年3月　渦井川水系河川整備計画策定

（注）完成予定は、今後の予算の見通しや用地買収の進捗等の不確定要素があるため、現時点の見込みを示す。

３．事業の必要性及び整備効果等

（１）事業の必要性

界谷川は、河道断面が小さいことに加え、周辺の地盤が低いことから度々浸水被害が発生しており、平成16年9月の台風21号では甚大な被害が発生した。

このため、下流の渦井川、室川の河川改修に加え、界谷川、金剛院谷川の堤防嵩上げ、河道付け替えのほか、界谷川の下流に排水機場を整備により浸水被害の軽減を図る必要がある。

（２）事業の整備効果

渦井川、室川は、年超過確率1/50の規模の洪水を安全に流下させることを目的に河川改修を行うことにより、家屋約741戸、農漁家21戸、農地83.2ｈａ、事業所約65箇所の浸水被害を軽減できる。

界谷川は、年超過確率 1/30 の規模の洪水を安全に流下させることを目的に河川改修を行うことにより、家屋約420戸、農漁家4戸、農地51.0ｈａ、事業所約22箇所の浸水被害を軽減できる。

金剛院谷川は、年超過確率 1/30 の規模の洪水を安全に流下させることを目的に河川改修を行うことにより、家屋約183戸、農漁家4戸、農地9.2ｈａ、事業所約7箇所の浸水被害を軽減できる。

また、内水河川である界谷川、金剛院谷川では、上記の河道改修に加え、排水機場を整備することにより、年超過確率 1/10 の規模の降雨に対して床上浸水防止を図ることができる。

（３）事業を巡る社会経済情勢等の変化

【地域の協力体制】

本地域では度々浸水被害が発生しており、特に平成16年9月の台風21号では甚大な被害が発生したため、平成16年11月には地元自治会より浸水被害防止対策の要望書が提出されている。

また、近年においても地元から事業促進に対する要望が寄せられるなど、地元の協力を得て河川改修に取り組んでいる。

【地域の事業に対する社会的評価】

本地域は、西条市の中心市街地に近いことから、世帯数の増加による宅地化が進んでいる地域である。

地元における浸水被害軽減に対する改修の効果は高く評価されており、整備の完了が求められている。

４．事業の進捗状況及び進捗の見込み

（うち用地費及び補償費） 令和 7 末投資事業費	（　　325.6 百万円）［進捗率：38%］(事業費換算) 3,853.6 百万円　［進捗率：54%］(事業費換算)

（1）事業の進捗状況

令和 7 度末において事業進捗率は 54%、用地については 38%の進捗率となっている。現在は、界谷川排水機場の整備がほぼ完了し、令和 9 年度に稼働開始予定である。

（2）これまでの整備効果

界谷川排水機場が令和 8 年度末に完成予定であり、令和 9 年度以降の内水被害の軽減が見込まれる。

（3）今後の事業進捗の見込み

下流の渦井川の整備を今年度から実施。その後、室川、界谷川、金剛院谷川の整備を順次進める。

５．事業の投資効果（費用対効果分析）

（1）費用便益比

C：総費用　10,309.6百万円
- ・建設費　9,505.0百万円
- ・維持管理費　804.5百万円

B：総便益＝　37,662.8百万円
- ・ 被害防止便益　37,617.2百万円
- ・ 残存価値　45.6百万円

B／C＝　37,662.8 百万円 ／ 10,309.6 百万円 ＝ 3.65

６．コスト縮減や代替案立案等の可能性

工事施工に当たっては、建設発生材を有効活用し、コスト縮減を図る。
また、残土搬出については、公共工事間流用が図れるよう、各関係機関との情報交換を積極的に行なう。

７．そ　の　他

工事の施工にあたっては、沿川の動植物の生息・生育環境の保全・再生を図るとともに、沿川住民が日常の潤い空間として利用できるように配慮する。

８．対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。